

## 質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	徳島大学		
取 組 名 称	高齢社会を担う地域育成型歯学教育		
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成20年度～平成22年度（3年間）		
取 組 学 部 等	歯学部	取組担当者	日野出大輔
W e b サ イ ト	<a href="http://edu-gp.dent.tokushima-u.ac.jp/">http://edu-gp.dent.tokushima-u.ac.jp/</a>		
取 組 の 概 要	<p>本取組は入学早期からのヒューマン・コミュニケーション学内授業における「思いやりの心」などの気づきを、学外体験学習での高齢者との交流に繋げるものである。特に、地域貢献により大学が地域を育て、逆に学生が地域に育てられる「<b>地域育成型歯学教育</b>」の展開から、歯学科・口腔保健学科学生の「<b>人間力の向上</b>」と「<b>医療人としての自覚を持つ</b>」を2つの教育目標とし、これからの高齢社会が求める歯科保健医療・福祉に携わる人材の育成を目的としている。</p>		

### 1. 取組の実施状況等

#### ①. 取組の実施状況

(1) 取組の実施体制：本取組は歯学部全体としての取組であり、その実施体制は歯学部長のもと、教務委員長および両学科教務委員の構成する**教育 GP 実行部会**が主体となり、有期雇用された教務補佐員（社会福祉士・歯科衛生士）と事務補佐員が両学科教員を補佐して遂行した。また、大学からは地域連携推進室の支援を受けた。

(2) 取組の実施計画に掲げた内容：毎年、4月～6月は歯学部1年全員（歯学科40名、口腔保健学科15名）を対象とした「食と健康学習」、「相互歯磨き学習」およびヒューマン・コミュニケーションをテーマとした「**気づきの体験学習**」を実施した。1年次後期は口腔保健学科15名、歯学科数名の希望者を対象とした「**高齢者交流学習**」を実施した。これは毎回、同じ高齢者との1対1の交流を3時間、8回行い、中間・最終振り返り授業を各1回実施するものである。2年次前期は両学科全員を対象とした少人数（4名程度）のグループによる「**地域福祉体験学習**（お口の健康長寿教室）」を延べ14箇所の社会福祉関係施設において実施した。最終的に「相互歯磨き学習」、「気づきの体験学習」、「高齢者交流学習」「地域福祉体験学習」は歯学科・口腔保健学科の**正規授業として組み入れる**ことができた。また、平成21年より**教育管理ネットワークシステム**を構築し、1年～2年次前期の取組において運用を開始した。

(3) 社会への情報提供活動：本取組開始に際し、徳島県、徳島県歯科医師会、徳島市社会福祉士協議会などからの協力を得た。また、徳島大学歯学部HPとリンクする独自の教育GPホームページを立ち上げ、本取組の情報発信を行っている。平成21年3月および10月は本取組の成果報告会を兼ねた**教育 GP シンポジウム**を、平成22年9月には本取組の総括として**口腔保健県民公開フォーラム**を開催した。Webより参加登録できるシステムを構築し、学生はもとより多くの歯学・福祉教育関係者に呼びかけるとともに、一般参加者を募り、シンポジウム及びフォーラムの充実をはかった。

## ②. 取組の成果

### (1) 地域育成型歯学教育の教育目標

#### < 一般目標 >

1. 人間力を向上させる。
2. 医療人を志すものとしての自覚を持つ。

#### < 到達目標 >

1. 基本的マナーを守る。
2. コミュニケーション力を養う。
3. ホスピタリティ・マインドをもって対応する。
4. 相手を受容して適切に行動する。
5. 口腔保健・福祉を原点とした地域貢献のあり方を述べる。
6. QOL向上における歯科専門職としての役割を説明する。

### (2) 「高齢者交流学習」による教育効果

養護老人ホームにおいて、高齢者との1対1の交流から、コミュニケーション力を養うため「高齢者交流学習」を実施した。本研究では同授業を受講した歯学部1年次学生(32名)を対象とした。教育効果を評価するため、毎回の学習記録とともに交流に関する自己評価を10点満点で記載させた。また、交流学習終了後「自己の成長したことベスト3」を自由記載させ、高齢者交流学習前後の参加学生のEQ(感情指数)の変化を調査した。交流後の学習記録に認められる「心に深く感じた」内容に加え、自己評価点数は上昇した。また、4つの到達目標に沿った表現の記載も確認された。交流学習終了前後のEQにおいても4項目全てにおいて有意な差が認められた。以上から、本取組は「人間力の向上」という一般目標に適した有効な教育カリキュラムであると考えられた。

### (3) 「地域福祉体験学習」による教育効果と地域貢献事業としての評価

本研究の目的は、「地域福祉体験学習」授業を受講した歯学部2年次学生(101名)への教育効果と、同取組の地域貢献事業としての評価を行うことである。徳島大学歯学部では、医療人を志すものとしての自覚を持つことを目的とした取り組みを県内16カ所の施設で合計28回実施した。これは、学生が口腔保健指導「お口の健康長寿教室」において、高齢者を対象とした口腔機能訓練の補助者として体験学習するものである。学習後のレポートから、到達目標とした地域貢献の在り方や歯科専門職としての役割を認識した学生が多くを占めた。一方、地域貢献事業として評価するため、参加職員への調査を行った結果、利用者への役立ちに加え、多くの施設職員の理解も深まったとのアンケート結果が得られた。以上から、本取組は学生への教育目標「医療人としての自覚を持つ」に沿った成果が得られており、また、施設職員の口腔機能向上プログラムへの理解の深まりから、今後の継続が期待される。(上記内容は、原著論文「地域高齢者との福祉体験学習の教育効果と地域貢献事業としての評価」、大学教育研究ジャーナル 第8号、17-24、2011に掲載)

### ③.評価及び改善・充実への取組

#### (1) 学生への教育評価

本教育 GP の先行取組である平成 19 年度徳島大学パイロット教育改革支援事業において、高齢者との交流を実施している鳥取大学を視察し、取組内容と学生の教育評価方法について検討・計画した。同支援事業にて実施した「気づきの体験学習」および「高齢者交流学習」における学生への教育評価内容を分析し、平成 20 年度からの本教育 GP の取組では、学生への**教育効果アンケート内容の見直しや人間力の向上に関する評価**として EQ（感情指数）の調査を加えた。また、教育 GP 取組期間中、取組終了ごとに教育成果と改善点を検討し、外部評価（後述）もふまえて次年度の内容に反映させた。

#### (2) 事業としての評価

徳島大学歯学部教育 GP の取組実施体制を確立するため、歯学部教務委員会内に教務委員長を中心とし、歯学科・口腔保健学科の教員が構成する実行部会を立ち上げ、計画のスケジュール等に関する討議などを行った。実施体制の確立により、本取組の積極的な協力を促す環境や、取組の一部を**正規授業として歯学部および全学共通教育授業へ組み入れる**ための体制を整えることができた。また、歯科衛生士および社会福祉士の有資格者を教務補佐員として雇用し、現在の教員だけでは不足している取組準備・学生教育指導を補完することができた。このうち、本取り組み協力施設との事前の十分な打ち合わせと実習中の**双方向の緊密な連携構築は非常に重要**であり、教務補佐員の活動により円滑な学外体験学習が実施でき、学生教育の質の向上に加え、**地域貢献事業としての評価**を得るためのアンケート調査もスムーズに実施できた。

#### (3) 外部評価

本取組の成果報告会を兼ねて開催した教育 GP シンポジウム、口腔保健県民公開フォーラムには、**3名の評価者を毎回招き、取組に対する外部評価を受けた**。これにより、各年度とも取組内容をふり返し、また次年度以降の取組に反映させて一層の教育内容の充実を図ることができた。たとえば平成 20 年度の外部評価者から指摘された「高齢者交流学習終了後の振り返りの重要性」に関し、学生がお互いの交流を語り合い経験を共有することにより経験を深めるために中間振り返り授業を実施するとともに、後述する Web システムを取り入れた。

#### (4) 徳島大学歯学部教育管理ネットワークシステム「エデュネット」

上記 **Web システムの構築・導入は、教育内容の充実に大きく貢献した**。まず、翌日までのレポート提出が可能となった。その結果、「高齢者交流学習」では、学生とパートナー間での交流を遅滞なく把握出来るため、教育効果の向上に加え、トラブル回避に繋がることとなった。また、地域福祉体験学習「お口の健康長寿教室」では、学生が「エデュネット」から、高齢者施設の特徴や設立背景を事前に理解することにより、より効果的な地域福祉体験学習の実施に繋げるとともに、実施施設担当者からのコメントを学生へ迅速にフィードバックすることが可能となった。これらのことは、学生への教育効果においても大きな成果を得る要因となったと考える。

#### ④. 財政支援期間終了後の取組

##### (1) 正規授業としての組み入れ

- ・ 1年次前期「相互歯磨き学習」「気づきの体験学習」  
歯学科（大学入門講座）                      口腔保健学科（大学入門講座）
- ・ 1年次後期「高齢者交流学習」  
歯学科（全学共通教育選択授業：ヒューマン・コミュニケーション）  
口腔保健学科（早期臨床実習）
- ・ 2年次前期「地域福祉体験学習」  
歯学科（早期体験実習）                      口腔保健学科（早期臨床実習）

すでに、**最終年度には上記のように正規授業として組み入れている**ため、今後のカリキュラムとしての授業の継続や受講による単位認定などに支障はない。

##### (2) 取組にかかわる人材の確保

教育の質の確保に支障なく、歯学部教員のみで授業が継続できるよう、学外交流授業内容や計画・運用などの見直しを行っている。平成23年度では、昨年度まで専任者として有期雇用された教務補佐員2名と事務補佐員が、一部本取組と関連する他事業で継続して雇用されており、本年度も本取組を補佐している。

##### (3) 取組経費の確保

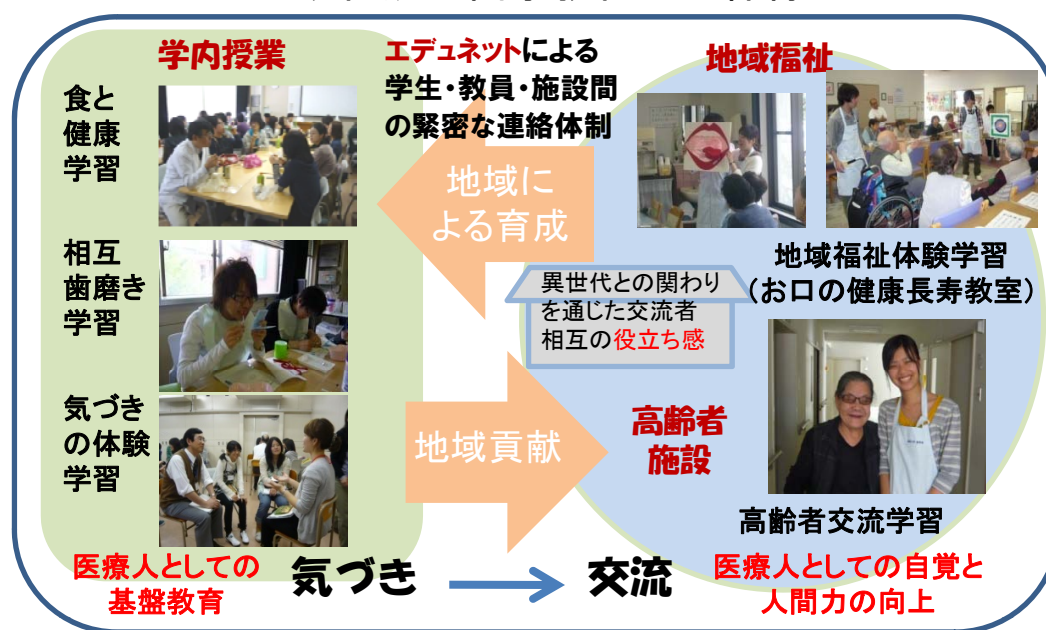
学外体験学習における各高齢者施設への学生教育経費は徳島大学歯学部教育予算から支出する。しかし、学生を引率するための交通費の確保に苦慮している（大学から距離のある一部の施設では、マイクロバス等での送迎が必要）。また、教育管理ネットワークシステム（エデュネット）の保守・セキュリティ管理において、今後の財源確保も課題である。

##### (4) 取組対象施設の確保

実習対象となる高齢者福祉施設に関しては、交流実績のある福祉施設に加え、情報発信にて取組内容を知った他施設からも、本実習を受け入れたいのと依頼があり、対象施設の確保に関して特に支障はない。

## 2. 取組の全体像

### 地域育成型歯学教育の全体像



#### (1) 学生への教育評価

取組	到達目標	教育効果の評価	数値結果
高齢者交流学習	① 基本的マナーを守る ② コミュニケーション力を養う ③ ホスピタリティ・マインドをもつて対応する ④ 相手を受容して適切に行動する	交流後の成長記録から目標達成度を評価 (記載者の割合)	到達目標① 47% 到達目標② 72% 到達目標③ 41% 到達目標④ 28%
		自己評価点数(10点満点)の交流前後の変化	平成20年度では5.8から8.8へ、平成21年度では7.1から8.1と上昇
		感情指数(EQ)の変化「感情の識別, 利用, 理解, 調整」	EQを構成する4項目すべてにおいて, 有意な変化が認められた。
地域福祉体験学習	⑤ 口腔保健・福祉を原点とした地域貢献のあり方を述べる ⑥ QOL向上における歯科専門職としての役割を説明する	学習記録からの到達目標達成度を評価 (記載者の割合)	到達目標⑤ 26% 到達目標⑥ 38%

#### (2) 事業としての評価

正規授業への組み入れ	1年次前期「相互歯磨き学習」「気づきの体験学習」	歯学科・口腔保健学科 (大学入門講座)
	1年次後期「高齢者交流学習」	歯学科 (全学共通教育選択授業: ヒューマン・コミュニケーション) 口腔保健学科 (早期臨床実習)
	2年次前期「地域福祉体験学習」	歯学科 (早期体験実習), 口腔保健学科 (早期臨床実習)
地域貢献事業としての評価	アンケート調査 ① 口腔機能向上プログラムは理解できたか ② 本取組を地域で積極的に取り組んでほしい	①の回答: はい63% どちらかといえばはい23% ②の回答: はい77% どちらかといえばはい19% ⇒地域貢献事業としての役割を果たしている

#### (3) 取組の改善と今後の展開

教育GP取組期間中、取組終了ごとに教育成果と改善点を検討し、外部評価を加味して次年度の内容に反映させた。正規授業へ組み入れた上記取組は、授業内容や計画・運用の一部見直しを行うものの、今後も継続する予定である。